血液透析療法		に	関しての説	明書・同	司意書
患者氏名	ID				_
説明日時:_西曆 年 月	日	時	分 ~	時	<u>分</u>
説明を行った場所:					
説明を受けた人 (<u>患者本人・</u>)	
主に説明を行った者					
同席者					
1. 診断名(疑われる病名)または病態名末期腎不全					
2. 病状の説明 血液・尿検査など諸検査の結果より、末 に反応が悪く、今後生命を維持するために が必要です.					
3. 検査・治療の目的・必要理由 血液透析とは、末期腎不全に伴って起こる 腎臓の代わりに整えます.	る尿毒素物	質や水分	分の貯留, 電	解質異常	などを
4. 検査・治療の実施日・期間、場所、内容					
<u>西暦 年 月 日 ~</u>					
場所 腎・血液浄化センター					

[治療内容]

シャントやカテーテルなどから血液を体外に循環させて、血液が透析膜(ダイアライザー)を通過する間に尿毒素物質や水分を除去し、カリウムやカルシウム、リンなどの電解質異常、酸塩基平衡バランス異常を整えます。生命を維持するためには、終生にわたり血液透析の継続が必要となります。

5. 当該検査・治療により期待される効果と限界

本治療を行うことで、末期腎不全に伴って起こる尿毒症症状や電解質・酸塩基平衡異常を 改善させることが期待されます。あくまで腎臓の代わりとなる治療(腎代替療法)の一つで すので、生命維持のためには、終生にわたり血液透析の継続が必要です。

- 6. 検査・治療に伴う有害事象(副作用)、危険性とその対応について
 - ①不均衡症候群:血液透析の施行により、細胞の外側(血液)において電解質の改善や毒素の軽減が早期より著明に認め、細胞の内側との間に濃度差が生じ、頭痛や吐き気等自覚症状の増悪を認めることがあります.
 - ②出血傾向の増悪:血液透析施行時に血を固まりにくくする薬(抗凝固剤)を使用するため出血傾向を増悪するおそれがあります.
 - ③体外循環に伴う循環動態の変化:透析中に血圧上昇や血圧低下などを来すこと があります.
 - ④透析回路や薬剤に対するアレルギー:透析の回路や薬剤と触れることで,アレルギー反応(悪寒・戦慄、かゆみ、血圧低下など)を示すことがあります.
 - ⑤感染症の増悪:血液透析導入時免疫能の低下を認めることがあり,そのため感染症の増悪を認めることがあります.
 - ⑥長期合併症:透析療法は正常な腎臓に比べ機能が劣ります.そのため長期に維持 透析療法を行うことにより,透析アミロイドーシスや透析骨症などの長期合併症 が生じる可能性もあります.

以上のことは現在の状態から考えられることであり経過により変化することがあります. 我々は合併症を避けるよう十分注意を払いますが,予期せぬ合併症が起こることがあり,患者さんに不都合が生じた場合は適切な処置を行います.

7. 代替可能な医療行為について

腎代替療法は、血液透析の他に、腹膜透析と腎移植があります。末期腎不全の状態です

ので、生命維持のためには、これらのいずれかの治療を要する状態です。それぞれの治療法の特殊性と、全身の合併症や、状態を考えて最適な方法を選択する必要があります。

- 8. 当該検査・治療を行わなかったときに予想される経過 当該治療を行わなかった場合には、末期腎不全による尿毒症や水分貯留、電解質異常な どにより生命に関わる状態になります.
- 9. 患者の特性による問題点、その他

この検査・治療を受けるか受けないかは、ご自身の自由な意思で決めることができます。主治医やご家族等の信頼している方に相談されるなどして、よくお考えの上、ご自分の意思で決めてください。他院の医師の意見を聞く機会をもつこと(セカンドオピニオンといいます)も可能ですので、その際はお申し出ください。この検査・治療を受けるか受けないかを、ご自身で決定できない場合、ご家族等の信頼できる人に委ねることもできます。その場合、主治医やご家族等で十分に話し合い、あなたにとって最善の方針をとっていきます。

仮にこの検査・治療を受けられなくても、その後の診療において何ら不利益を受けることはありません。また、一旦、この検査・治療を受けることに同意した後でも、いつでも自由に当該の検査・治療を受けることを取り止めることができます。その場合でも、ご自身は何ら不利益を受けることはありません。

説明日	西暦	年	月	日	
説明者	氏名				印

私は上記の説明文書に則って、説明を受け、内容を理解しましたので、同検査・治療を受けることに同意します。

<u> 西暦</u>	年	<u>月</u>	日			
氏名				印	-	
代諾者				印	_(本人との関係:)